

会津若松から「冬」を追う

# 白と青の世界を 映し出す 奥会津の水面

小さな命が鮮やかに芽吹く春、深い緑の中で飛沫がきらめく夏、黄金色の天蓋から紅葉が降り注ぐ秋。豊かな色彩を映し出してきた会津の川辺も、白く塗りつぶされる季節になった。

豪雪地帯・奥会津の渓谷に訪れる冬は、特別な静寂を連れてやってくる。外音を降り積もった雪が吸収してしまふのだ。時間が止まったような白銀の世界で、時折木々から落ちる雪音を聞きながらカンジキを履き、会津川口付近の只見川（たみがわ）上流を目指した。

只見川の渓谷には奇岩がたくさんあり、岩間を清流が美しく蛇行する。この独特の景観に昔から魅了されていたのだが、数年前の豪雨で草木はなぎ倒されてしまい、しばらく撮影できずにいた。失われた風景が戻るにはまだ時間がかかるが、雪化粧が自分の知らない只見川を見せてくれるかもしれない。そう信じ、凍える手をこすりながらシャッターチャンスを待った。

冬の天気は変わりやすく、視界が悪くなってきたと思うと急に吹雪き出す。しばらくじっとしていると明るくなり、渓谷がぼんやりと姿を現す。これを幾度か繰り返し、ついに待ちわびた晴れ間がやってきた。ファインダーを覗くと抜けるような青空の下、冠雪した山並みが輝いている。初めて出会った冬の只見川は、鏡のような水面に山里をくつきりと映し出していた。



【写真右上】金山町会津川口付近で撮影した只見川。川沿いの沼田街道筋には、柳津温泉、宮下温泉、沼沢温泉、大塩温泉など多数の温泉街があり、奥会津の名湯が楽しめる。

【写真左上】南会津町大桃付近で撮影した伊南川（いながわ）。夏場は生い茂る草木で近づけない渓谷も、冬は積雪のおかげで歩いて降りることができる。岩陰に隠れた空洞に足を取られないよう注意しながら水際へ。清流は凍り付くことなく流れていた。

【写真右下】天栄村湯本付近で撮影した鶴沼川（つるぬまがわ）。夏場に見下ろしていた緑豊かな渓谷は、深い雪に覆われ水墨画のような世界へと様変わりしていた。

【写真左下】郡山市湖南で撮影した猪苗代湖。晴天に恵まれ、磐梯山を撮影しようと呼びかけていたら白鳥の群れを見つけた。青空の下、羽を休める白鳥と雪の積もった磐梯山。会津の冬ならではの景色を撮ることができた。

